

青丘文庫 月報

No.132

98年9月1日

図書室 〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-2-1 神戸市立中央図書館内

Tel 078-371-3351 相談専用Tel 078-341-6737

編集人 〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (財)神戸学生青年センター内

飛田 雄一 Tel 078-851-2760 FAX 078-821-5878

郵便振替 00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000 円

ホームページ <http://www.hyogo-iic.ne.jp/~rokko/sb.html>

エッセー

学校史に地域の在日朝鮮人史を位置づけよう

横山篤夫



勤務している高等学校の前身を溯ると、1897年4月に開設された旧制中学校に到るといことで、昨秋に創立百周年の記念行事が学校と同窓会とPTAの共催でとり組まれた。その一環として、数年がかりで学校の事業として、百年の沿革史が編纂・刊行された。その編纂に、歴史の教科を担当した一人として参加したことで感じたことを述べてみる。担当したのは通史で、地域史から何故この地に旧制中学校が開設されたのかという序章と、1931年から1945年までの15年戦争期とであった。50年沿革史や80年史がすでに編纂されていて、その後も史料の蒐集・整理が進められ、約7000件の校史資料がリストアップされていた。

そのなかには、系統的ではないが在日朝鮮人生徒に関する史料も若干含まれていた。百年史は、他校の学校史でも大きな区切り目として相当な頁数で、網羅的に編纂されているものが多く、とり上げている項目も多岐にわたるが、管見の範囲では15年戦争期に在日朝鮮人生徒を校史に位置づけているものは見当たらなかった。そこで不十分でもとにかく、これを学校史の中に組み込もうと試みた。結果としては、15年戦争期の130頁の叙述の中で3頁を占めたにすぎないが、その頁の存在によって、全体的記述の際にも在日朝鮮人史に触れることが不自然でなく可能になった。例えば皇民化政策が強まるなかで創氏改名が強行され、名簿上は姿を消した在日朝鮮人生徒を対象に、憲兵隊の特高課が治安対策の立場からその動向について不断に監視し校長名で定期的に報告するように求めていた「半島人就業調査」の存在を、文書の写真を含めて公表することができた。また1940年5月から1941年6月、留守第4師団の師団長であった「李王殿下」の中等教育に及ぼした影響の一部を、当時の生徒の文章を通して紹介した。きわめて不十分ではあるが、今後これ等を窓口にも百年史等で更に本格的に取り上げる手掛かりは残せたのではないかと思います。

近年、市町村史や県史等の自治体史のなかに、在日朝鮮人史が一定のスペースをとって位置づけられている記述が登場しはじめています。全体的には未だ少数とはいえ、編纂・執筆者の相当の努力が新しい自治体史の在り方を切り拓きつつあるように思われる。それに

較べて学校史では、具体的史料が残っていると思われる場合でも触れられていないことが多いのではないかと。旧制から数えて百年を迎える高等学校がここ数年で相当数あるだけに、担当者に史料の掘りおこしと記述に組み込むことを望みたい。

第172回朝鮮民族運動史研究会（7月12日）



「韓国における選挙と政治変動

—国会議員選挙と改憲／護憲争点—

出水 薫

今回の報告の目的は、87年「民主化」以前の時期の国会議員選挙と政治変動の関係を考察することである。すなわち国会議員選挙の結果が、政治変動発生の因果均要因として機能しているという仮説を検証することである。

日韓の先行研究において、政治変動発生の因果的要因として国会議員選挙の結果が果たした機能を解明しようとするものは、ほとんどなかった。そこには、「独裁」政権下の議会選挙という制度的手続きは、考察を加えるに足るような機能をになっているわけではないという予断が反映されているように見える。これに対して安秉萬の研究は、政治変動の直前の国会議員選挙における変化を、政治変動の発生とを因果的に結びつける視点を示した先駆的な試みであった。ただ同研究は、優れた着想を示しつつも、それを全面的に展開しているわけではなかった。

今回の報告は、この安秉萬の着想を継承し発展させ、改憲問題に関連して国会の議席分布がもたらした効果を通して政治変動の発生を理解しようとするものである。ただ今回の仮説は、特定の政治現象の因果的要因は複数併存しうることを前提にしており、その意味では、他の因果的要因の存在を重視する先行研究の仮説と、あくまでも相互補完的關係にある。なお「維新体制」期は、改憲に関連して従来国会が発揮してきた機能が失われていたので、同時期の選挙と、朴正熙暗殺から全斗煥政種の成立にいたる政治変動との関係は、今回の仮説の適用対象から除いた。

58年の第4代選挙においては、大統領の職務継承権が野党の握る副統領職にあるという状況があり、大統領職務の継承にともなう政権交代を阻止するための改憲を与党が望んでいたが、選挙の結果それが不可能になり、「4月革命」の直接の発端となった60年の大統領選挙における大規模な操作・介入にいたったと言える。

71年の第8代選挙の場合、国際環境の変化などにより、政権側が行政権を強化しようとする状況になったが、選挙によって改憲が不可能になり、立法による脱憲法的権力行使の可能性が追求されたが、それも失敗した結果、「10月維新」という上からのクーデターによって、行政権の極大化を実現するための憲法秩序の改編がおこなわれた。

85年の第12代選挙では、大統領直接選挙制改憲が「民主化」の焦点となっており、選挙の結果、もっとも強硬に改憲を主張する新生野党が躍進し、与野党が改憲の実施までは合意したものの、改憲の内容をめぐる膠着状態の中から、「民主化宣言」にいたる動きが発生したのであった。

以上のように政治的変動直前の選挙の結果、野党が単独で改憲を阻止できる議席数を獲得することによって憲法秩序の改編をめぐる対立が膠着状態となり、



政治変動が発生しているのであり、そこに選挙の因果的な機能を見ることができる。

第207回在日朝鮮人運動史研究会（7月12日）



1930年代半ば以降の兵庫県朝鮮人労働運動 堀内 稔

8・15解放前の兵庫県における朝鮮人労働運動史研究の一環として、日本労働組合全国協議会（全協）以後の労働運動について報告した。

共産党の労働運動組織である全協は、兵庫県においては1934年の段階で実質的な壊滅状態になり、それ以降の朝鮮人の労働運動は、日本の合法的な労働組合の支援を受けたり、消費組合運動として展開された。

31年の「満州事変」以降、日本の社会は次第に戦争色を強め、ファッショ勢力の台頭とともに労働運動は活力を失っていき、37年日中全面戦争以後はほとんど運動を展開しなくなる時期である。

こうした中、左翼団体としては全協の残存勢力が若干運動したほか、34年の相愛会兵庫県支部の結成に対抗した在東神朝鮮人団体協議会の結成、民族教育を目指した槿華青年会（36年、本庄村深江）の活動があった。

民族団体としては、36年に朝鮮水害救済委員会を契機として民族団体7団体が結集して結成された兵庫県朝鮮人団体連合会のほか、新進会、兵庫県刺繍業福楽従業員連盟、阪神東華自治会（本庄村青木）などが活動した。兵庫県朝鮮人団体連合会は、結成以後目立った活動はなかったが、阪神東華自治会は阪神消費組合の青木支部と連携して民族教育活動に力を入れた。また兵庫県刺繍業福楽従業員連盟は、神戸市葺合、灘を中心として勃興したフックラック（刺繍敷物）に従事する朝鮮人労働者が、36年の宮下敷物刺繍製造工場の労働争議を契機に組織したもので、約800名の多数の組織人員を誇った。活動については明らかでない。

フックラック製造については、神戸で多数の朝鮮人が従事した産業として今後更なる研究が必要とされる。

そのほか、この時期を代表する労働争議としては35年の伊丹の堀抜製帽の争議があり、また伊丹飛行場の建設に従事した朝鮮人労働者の動向も注目される。阪神地区では武庫川砂利採取の朝鮮人労働者の争議（37年）があり、武庫川の砂利採取とそれに従事する付近の朝鮮人の姿を浮かび上がらせた。

太平洋戦争以降は、労働組合はすべて解散してしまっていたため、争議は突発的な反抗や、逃亡といった消極的なものにならざるを得ず、そうした記録が『特高月報』に記録されている。

むくげ叢書⑤ 堀内稔

兵庫朝鮮人労働運動史一八・一五解放前

むくげの会刊/A5版、250頁、1800円（送料310円）

購入希望者は、郵便振替<01120-5-46997>に送料とも2110円を送金下さい。

青丘文庫研究会のご案内

第173回朝鮮民族運動史研究会

9月13日(日)午後3時

報告者 林 茂

テーマ 「京都時代の尹東柱」

第208回在日朝鮮人運動史研究会

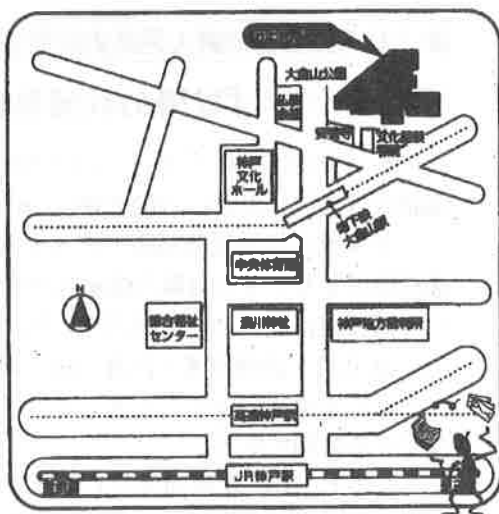
9月13日(日)午後1時

報告者 高木伸夫

テーマ

「阪神地域の朝鮮人の定住をめぐる」

※会場はいずれも青丘文庫(神戸市立
中央図書館内、地図参照)



「第9回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会報告集(97年7月・松江)」ができました。一冊1000円(A4、105頁、送料160円)。必要な方は、送料とも、1160円を「郵便振替 01150-4-43074 飛田雄一」で送金ください。

編集後記

★ようやく涼しくなってきました。いかがお過ごしでしょうか。有意義な夏休み?を過ごされましたか? 私は、「神戸・南京をむすぶ会」のツアーコンで上海、南京、撫順、瀋陽に行ってきました。南京も暑かったが、神戸も暑かった!!

★ことは悲しい知らせが続きますが、在日の研究会のメンバーであった梁泰昊さんが去る7月22日亡くなられました。梁さんには『ブサン港にかえれない』等の著書があります。また、『在日朝鮮人史研究』には、「尼崎市における分校問題の一断面」(第18号、1988年10月)を書かれています。11月21日、午後2時～、神戸学生青年センターで「偲ぶ会」を開きますので、ご参加ください。

★本号に広告を掲載した堀内稔さんの『兵庫朝鮮人労働運動史一八・一五解放前』がむくげの会より出版されます。10月10日(土、体育の日)に出版記念会を開きます。(午後3時、神戸学生青年センター) よろしく。

★青丘文庫の特徴のひとつに韓国の学術雑誌の収集があります。最近、欠号が目立っているので研究会会員で分担購読してそれを寄付しようという話がでていました。その話をそのうちまとめたと思っています。

(編集長/飛田 E-mail rokko@po.hyogo-iic.ne.jp)